

高校のキャリア教育と就職支援を考える








- 学校・企業・ハローワークの連携の中で -

パネルディスカッション 第1部 現場からの報告



県立高知東工業高等学校
進路指導部：土方 聖志

1. 学校の概要

機 械 科	機械生産システム科	理 工 学 科	電子機械科	電 子 科
<p>従来からの機械工学全般を学習し、県下随一の最先端工作機器群の整備されている実習工場において、豊かな教養と専門の工学を身につけさせ、現代社会のニーズに即対応できる技術者を育成することを目指します。</p> 	<p>FMS(無人化工場モデル)実習をはじめ様々な加工機械の実習、情報技術を活用した生産システムを学習します。また、生産工場の経営、管理、更に環境問題についても学習し、産業社会の進歩、複合化に対応できる実践的技術者の育成を目指します。</p> 	<p>あらゆる工業技術・科学技術を考えるための基本的知識を習得し、大学進学や就職・少人数など、ユニークな学習環境により、理工系大に進学していきます。</p> 	<p>電子機械科とは、機械と電子を結びつける技術です。電子機械の技術は、製造現場のオートメーション化はもちろん、家庭用の遠隔制御などに使われています。電子機械科は、機械系、電子系の基礎を幅広く学習する科目です。</p> 	<p>電子科では、電子回路、電子計測制御、コンピュータやその他の実験実習を通じて電子工学に関する知識と技術を習得を促進しています。第2級陸上特殊無線機事務担任者試験(A・D)一部科目免除の認定校です。</p> 
 <p style="font-size: 2em; color: red; font-weight: bold;">機械系</p> <p style="font-size: 2em; color: blue; font-weight: bold;">電気・電子系</p> 				

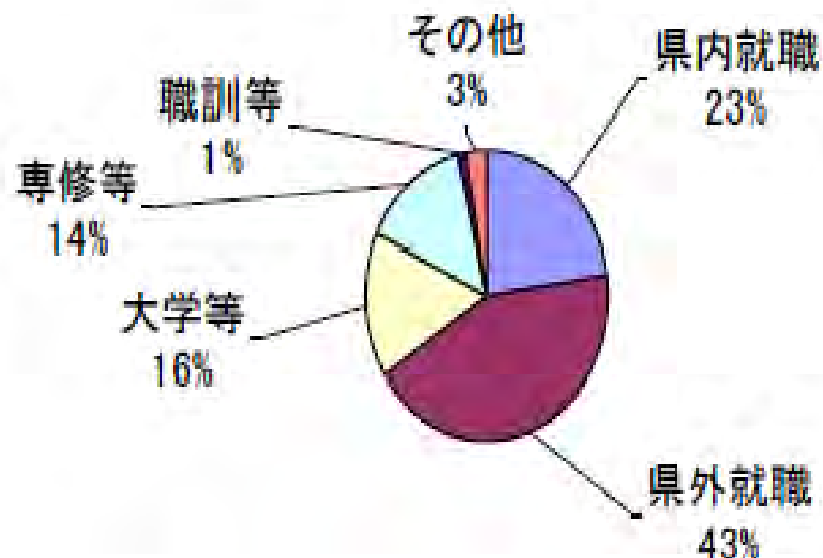
進学系

- 生徒数 490名 中規模専門高校
- 資格取得 中四国1位(平成17年度)
- ISO14001 認証取得



H 1 9 度進路状況

平成20年3月卒業生進路先



****<<県内>>****

ミロク製作所×2、スエジー×2、特殊製鋼所×2、キョウトウ×2、垣内、ミロク機械、土佐電気鉄道、土佐くろしお鉄道、JFE環境サービス、大沢製作所、土佐メンテナンス、トミナガ、技研製作所、四国電力高知支店、土佐テック、佐川急便四国支社、太平洋セメント株式会社土佐工場×2、宇治電化学工業×2、かつら商事、ニッポン高度紙工業、太陽、四電工高知支店、釜原製鋼所、栄光工業

****<<県外>>****

豊田自動織機(技術)、マツダ(技術)、和光技研工業(技術)、日野ヒューテック(技術)、トヨタ自動車(学園)×2、トヨタ紡織(技術)、ジェイテクト(学園)、東海理化電機製作所(学園)、トヨタ自動車、トヨタ紡織、ダイハツ工業×2、アイシン精機、シミズ工業×2、本田技研工業鈴鹿製作所、デンソー、豊田自動織機×2、三五、マツダ、大信精機、キヤノン×2、住友電気工業大阪製作所×2、クロイ電機、関西電力、四電エンジニアリング、日東電工尾道事業所、きんでん、ファーストマネージ、住友電気工業横浜製作所、沖関東サービス、東京ビジネスサービス×2、新川電機、三菱重工業神戸造船所(学園)、神戸製鋼所加古川製鉄所(学園)、大同特殊鋼(学園)、オークマ、アイ・エイチ・アイ・エスエーテック、今治造船丸亀事業本部、日本鍛工、JEFメカニカル、JFEスチール西日本製鉄所、三井造船玉野事業所、フジケンエンジニアリング、住友ゴム工業名古屋工場、小林記録紙、JFE物流西日本事業所、いかるが牛乳、上組、ダイコロ、四電ビジネス、福山通運、フジパン枚方工場

66%:就職、 34% :進学
就職者のなかで工業系
(製造業+電気ガス+運輸通信)

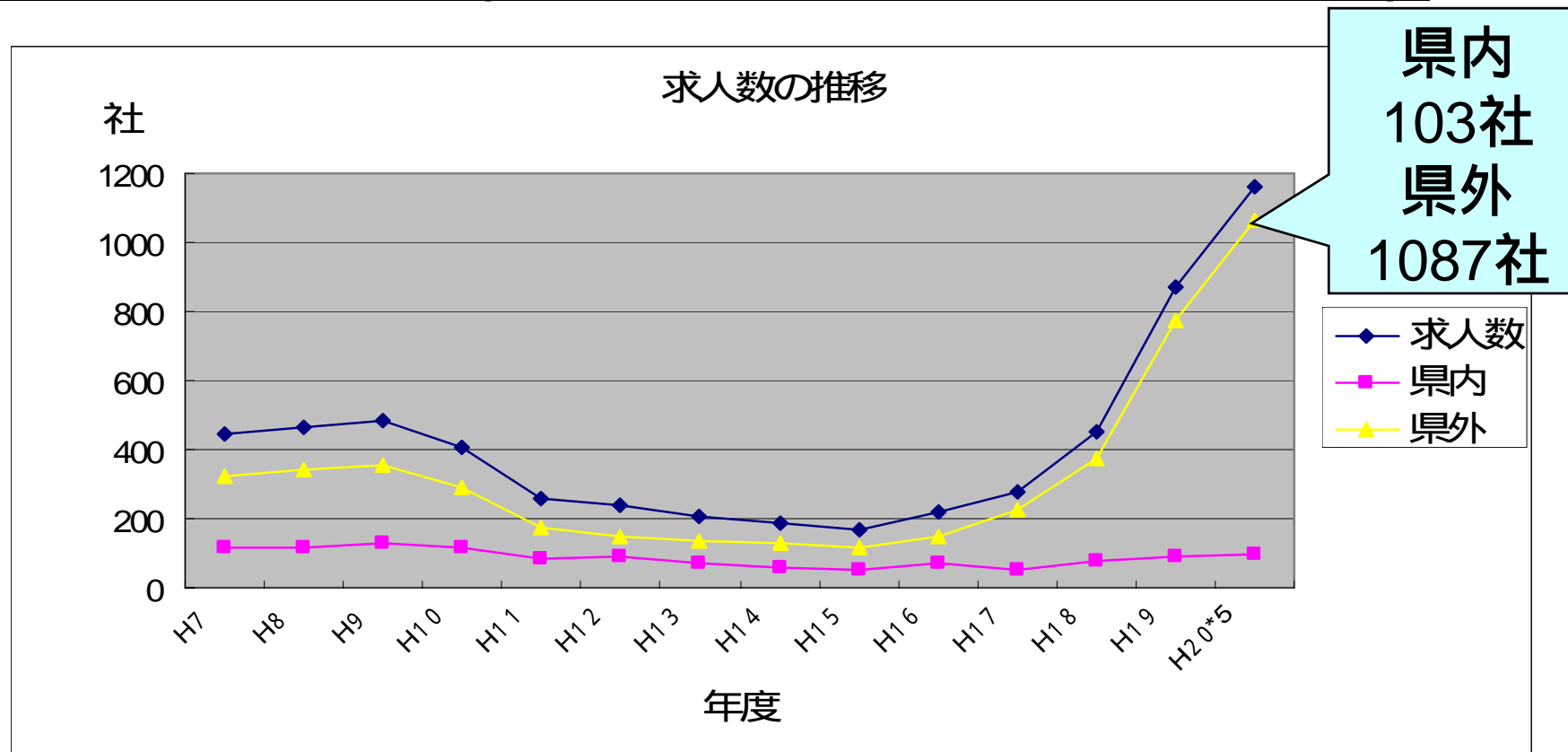
91%

就職内定100%

進学決定100%

「求人」について（過去10年間に生じた変化の特徴）

10.1現在

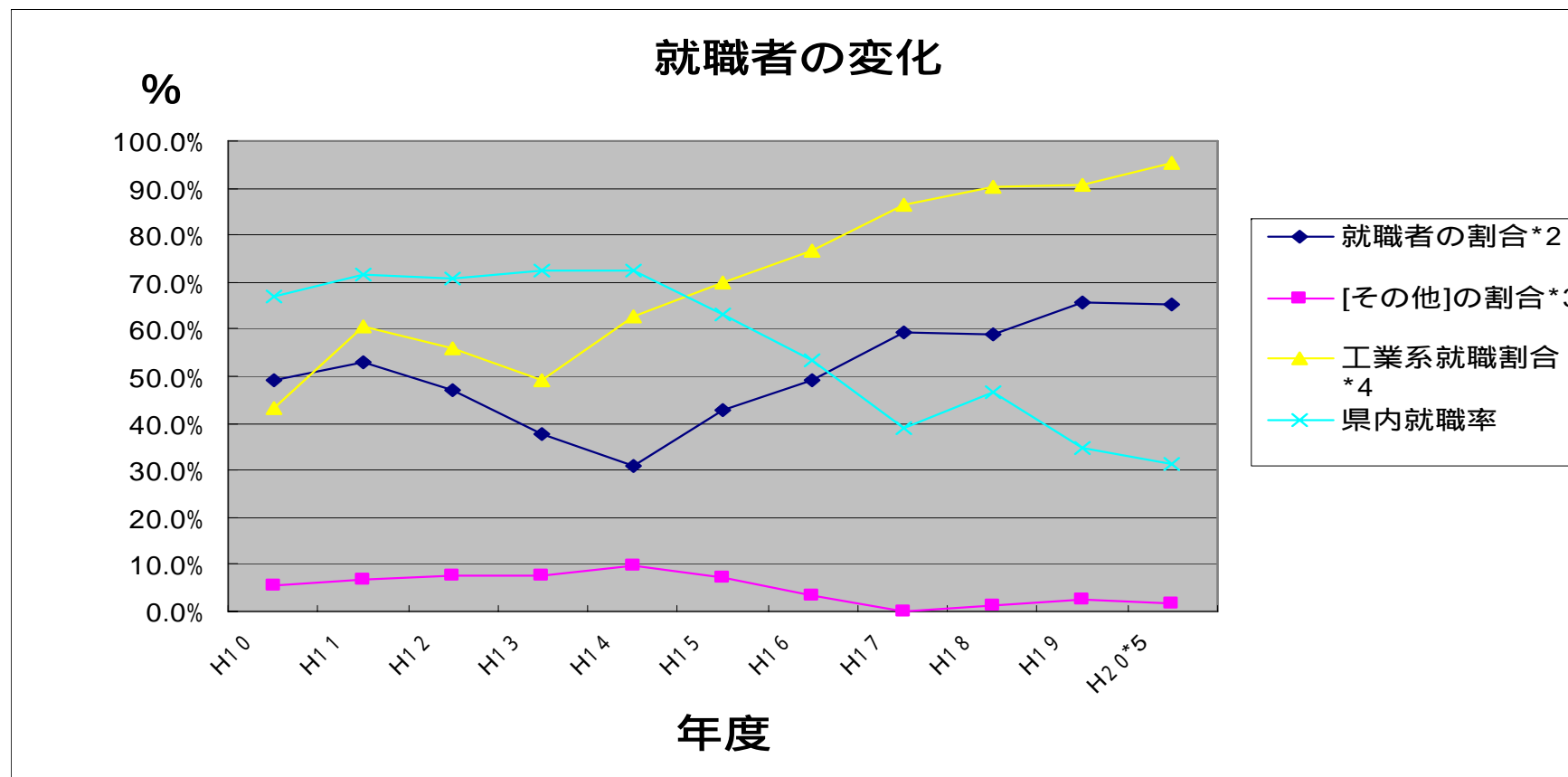


- ・ 県内求人は、ほぼ横ばい **県外求人の伸び顕著**
- ・ 中部の機械（車）H17、関西の電気（家電）H19

景気回復、団塊の世代退職

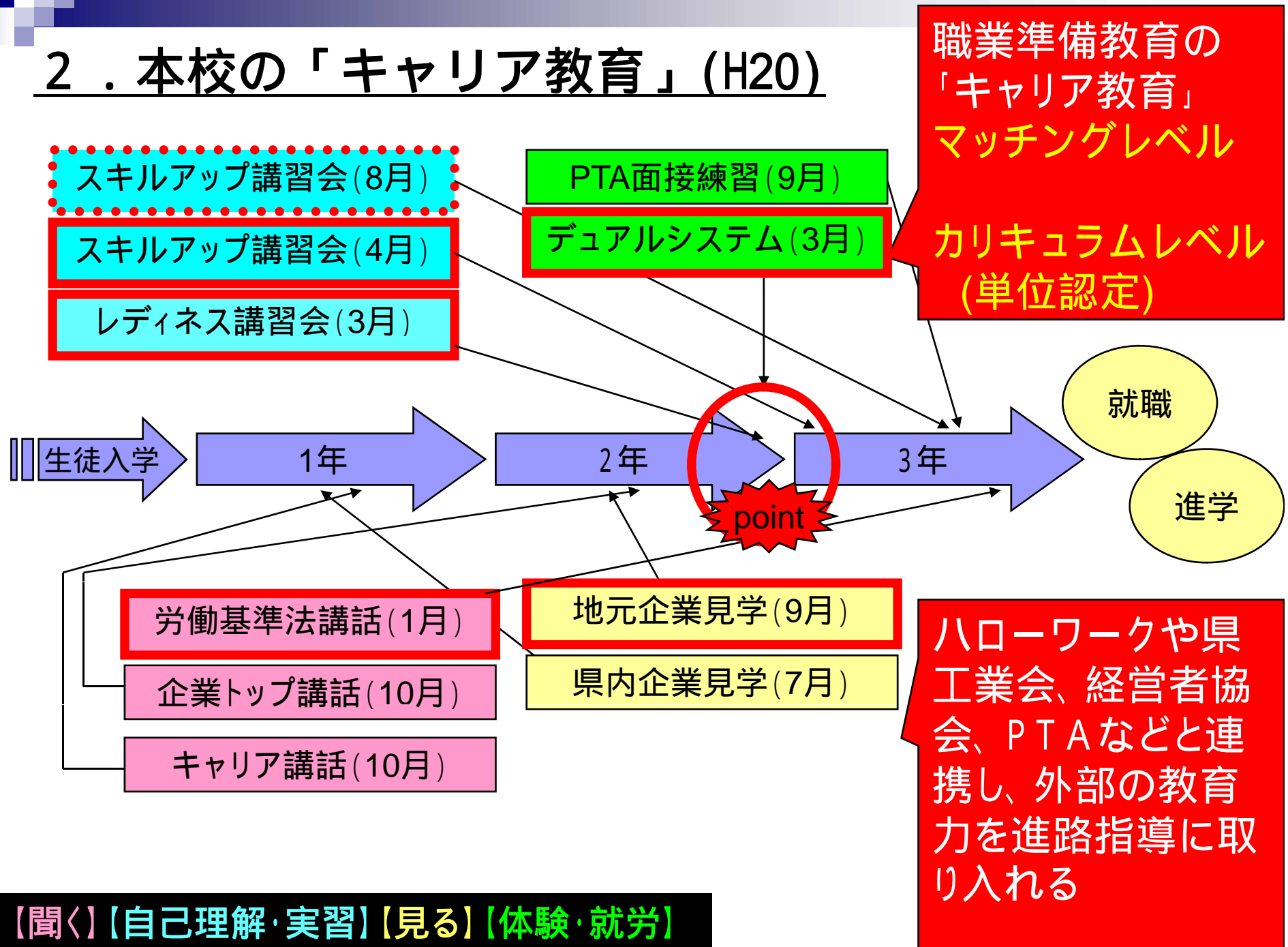
- ・ 技能職だけでなく技術職、学園生としての就職 **雇用形態の変化**

過去10年間の卒業生の進路



- ・ H14より就職者、工業系就職割合増加
- ・ 反面、県内就職率減少 **県外製造業求人増よりへ県外へ**
- ・ その他・無業者の割合は比較的低い **キャリア教育の成果?**

2. 本校の「キャリア教育」(H20)



「担い手育成事業」(高知県商工労働部、県教委)H20～

きっかけ：生徒の地元就職に関する情報不足

……「県内企業の良さをみんなに知ってもらおう」

企業技術者等による技術指導(20時間程度)
地元企業より技術指導。教授方法の習得。

企業への研修(1週間程度)
地元企業へインターンシップ研修(生徒・教員)

企業との共同研究
「課題研究」「部活動」での共同研究

デュアルシステム(35時間以上の就労体験)
12社25名受入。単位認定。2年生春休み。

メリ
ット

生徒 地元企業で体験→授業・実習とリンク、企業を知る

教員 指導力向上、企業とのパイプ役となるきっかけ

3. 就職に関する問題

進路決定要因（就職と進学の違い）

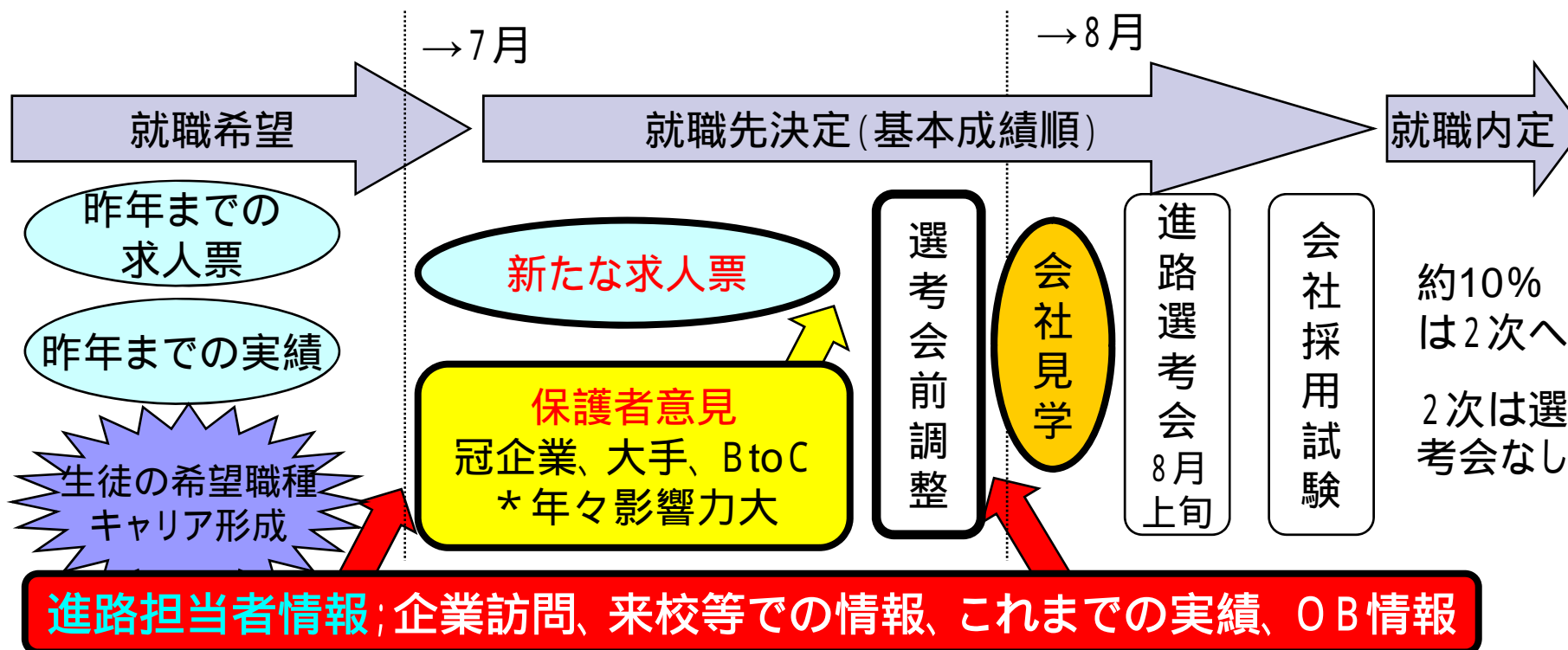
	進学	就職
情報	進学情報誌 膨大 オープンキャンパス 頻繁	求人票・パンフレット 情報量が少ない 会社見学 機会・回数が少ない 過去の実績・教員の勧め
学力	模擬テスト結果 相対評価	過去内定者のデータ 絶対評価（認定評価）
合否	入試成績（推薦・AO 多くなっているが、）	面接重視（学校評定・欠席・クラブなど）

* 就職希望者は、求人票の中から教員の過去の実績より選別され、推薦される。

また、進学者よりも、他者の意見が決定要因になる可能性が高い。

3. 就職に関する問題

就職先選択のコントロール



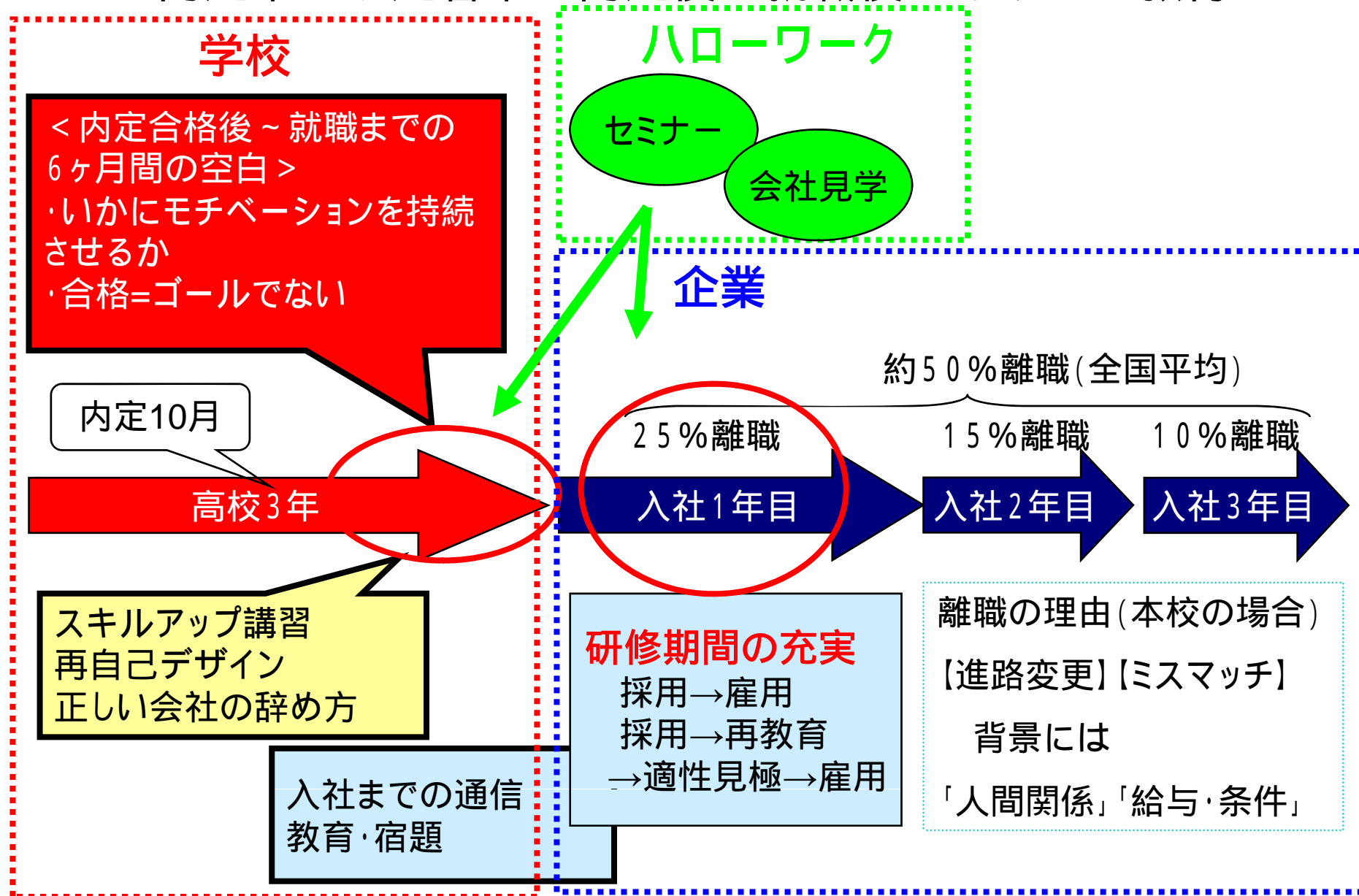
- 基本的に、7月1日以降の求人票が出るまでは希望がかなうかどうかは分からない。求人票提出が遅い場合(8月以降分)は選考会に間に合わず為流れる可能性あり。

求人票の8月以降分は2次へまわる

- 保護者の意見が強くなると、結局知名度や規模で就職先を選ぶ BtoC化
- 進路担当者の情報が大きな鍵を握る 来校、企業訪問での企業と学校のパイプ役
- 成績上位者の動向で下位者は振り回される。特に新たな求人などで好条件の場合

総合的に・・・【キャリア教育の限界?】

内定率より定着率；内定後・就職後のキャリア教育



4 . 進路指導体制の今後の課題・期待（まとめ）

本校は、従来型の【日本的高卒就職システム】であり、企業 - 学校の「実績関係」、生徒 - 学校の「連結性」が残っている。また、製造業での求人が好調であり、学校斡旋での就職する仕組みが有効に機能している。そのため、無業者比率低い。

企業とのパイプ役教員の役割大。企業情報、実績情報の共有化が必要

職業準備教育のなかでの「キャリア教育」を実施。マッチングレベルからカリキュラムレベルへ（p.138）。「連結性」を外部へ向ける仕組み

保護者の就職先への関与（会社見学や就職先選び）が強くなっている。

+ 生徒 - 企業の「連結性」へ。外部の教育力を活用。保護者への説明責任。

大卒者より高卒者を採用して企業で育てるという考え(p.103高学歴代替)より、近年、専門的・技術的職業の就職者が増加している(p.23)

求人の質の変化。内定率より離職率の問題。内定後より1年間の勝負。

結局はネームバリューや成績上位者から就職先決定・・・「キャリア教育」の限界

大学偏差値での大学選びと類似。

各企業の採用判断基準（試験内容や）がバラバラ。

進路担当教員の情報大。企業との連携がさらに必要。教員のフットワーク力が必要。

企業経験のある教員は感覚的に企業の求める人材が分かる。